

## 競技かるた読手テキストについての質問と回答

項目	質問事項	回答内容
「5、3、1、6」方式への変更について	従来、読手講習会では、「4、3、1、5」方式において、「4秒」は、「4秒台後半」、「5秒」は「5秒台後半」が望ましいと指導されていたが、新テキストでは、それが、「5秒程度」「6秒程度」に変更されています。これは、「5秒台後半」、「6秒台後半」まで可能ということになりますか。また、従来どおり、「4秒台後半」、「5秒台後半」でもよいということでしょうか？	「5秒程度」というのは4秒台後半～5秒台前半です。「6秒程度」というのは「5秒台後半～6秒台前半」です。
	「4、3、1、5」方式から「5、3、1、6」方式への変更された理由がよくわかりません。26ページに『大きな会場で読むことが多くなり伸ばしが長めになる実態があった。実態に方式の呼称を合わせた』との記述があります。それならば、本来、読手講習会等で、実態をテキスト（4秒台、5秒台）の記述に合わせるよう指導するべきかと考えます。 体育館等大きな会場では、マイク読みになります。大きな会場だからといって、読みが長くなることはないのではないかと考えます。 例えば、高校選手権大会のD級会場は、大津市の武道場です。私は、ここで読みますが、少しでも進行を早くするために「4、3、1、5」をきっちり守って読みます。読みが2秒伸びれば、1試合で約3分長くなりかかります。7試合では、20分以上の差になります。大会運営を考えた場合、むしろ、「4、3、1、5」方式をきちんと守る方が、理にかなっていると思いますが、いかがでしょうか？	ご存知のとおり、「4、3、1、5」の「4」について、いまだに「3秒台後半～4秒台前半」で読む人がいます。「5」について、いまだに「4秒台後半～5秒台前半」で読む人がいます。その読みでは「競技者が安心して競技に臨め」ません。呼称を変更することにより、読みを競技者に合わせる必要がありました。読手は競技者中心の読みを追求する必要があります。
項目	質問事項	回答内容
「伸ばしの箇所について変更を加えた」ことについて	今回のテキストでは、21首（具体的には、下記の①、②）の読み方を変える必要があります。 また、一本化されていた読みがどちらでもよいとされるものが、23首（具体的には下記の③）増えています。なぜ、このように大幅な変更する必要があったのでしょうか？それぞれの変更理由を教えてください。 どちらでもよいとするのを23首増やすのであれば、①、②もどちらでもよいとされた方が、これまでの指導方針と合致し、混乱がないと思いますが、いかがでしょうか。	今回の改訂にあたり、これまでの方針に整合性・統一性を持たせました。 ③については従来通り読んでいただいてもかまいません。よって読みを変更する必要はありません。 ②も③も、P4の4「上の句の終わりは最後の一字の前で少し伸ばして読む」という原則を重視しました。③については従来の読みを変更する必要はありません。②については、原則に従いこれまでの伸ばしを変更しました。 ①については、他の読みとの整合性を図りました。（これまでの伸ばしを変更しました。）特に「ちは」「ちぎりき」は競技者がタイミングを合わせやすいよう変更を加えました。
	<b>① 従来の読みが完全に否定されたもの</b> 4首（ちは、ちぎりき、おおこ、よのなかは）。「スエノマツヤマー」が、「スエノマツヤマー」に、「カラクレナイニー」が「カラークレナイニー」に変更。従来の指導方針では、「末の松山」「からくれない」は文法上ワンワードなので、切らずに読みますと指導されていました。一方、「おおこ」、「よのなかは」は、「タエテシーナクパー」が、「タエテシナクパー」に「ツネニーモガモナ」が、「ツネニモガモナー」に変更。	
	<b>② 1本化されたもの17首（18か所）</b> 「あらし」「あまの」「ありま」「なにわが」「なげき」「わすら」「こころあ」「これ」「みち」「ちぎりお」「ひとも」「ひさ」「つき」「しら」（2か所）、「もも」、「む」、「め」	
	<b>③ 新たにどちらでもよいとされるもの23首</b> 「あきか」「あまの」「ありあ」「なにわえ」「なげけ」「おおけ」「わび」「たか」「この」「こひ」「みかき」「みかの」「やあぎ」「よを」「かぜを」「かく」「ちぎりき」「ちは」「きみは」「きみを」「つく」「ゆら」「ひとも」	
項目	質問事項	回答内容
テキストの基本的な考え方について	従来のテキスト（平成16年初版）では、「はじめに」の5行目に『さらに一番大切に考えたのは、選手の立場になってもっとも取りやすい読み方を目指して…』という一文があります。新テキストにも「はじめに」の最後に『競技者が安心して競技に臨めるよう努めてほしい』との記載があります。 新テキストのこの一文は、平成14年からの考え方『選手の立場に立ってもっとも取りやすい取り方』を目指すということを示していると考えてよいですか。それならば、次回改定時には、それがはっきりとわかるよう「はじめに」の最後の一文を以下に変更いただけないでしょうか。 『このテキストは、選手の立場に立ってもっとも取りやすい取り方を目指したものであり、読手を志す者は、車の両輪のように、読み、取りの勉強をし、競技者が安心して競技に臨めるよう努めてほしい』	「選手」が「取りやすい」というのは読みの一つの側面を表しています。 一方、「競技者が安心して競技に臨める」には「取りやすい」のはもちろんのこと、P2やP25にある「競技者から」の「信頼」感や読みに向き合う姿勢も含まれています。 理想の読みについて紙面で簡潔に述べるのは難しいので、読手講習会で具体的に時間をかけて説明する必要があると考えます。